



同センター前では無人トラクターや新型農機の実演が行われた

全国展開の第一歩を益城町から

(株)キセキ九州が農業者支援の施設を開所

(株)キセキ九州が2月17日、九州アグリサポートセンター(黒石崎)の開所式を行い、関係機関や農業関係者87人がセンターの機能などの説明を受けました。

昨年11月に安永に開所したセンターと合わせて「夢ある農業応援九州研究所」(通称:夢九研)と呼ばれ、さらなる農業後継者支援のため、夢ある農業(=儲かる農業)の実現を目指します。代表取締役社長の深見雅之氏は式の挨拶の中で「夢ある農業実現の第一歩を益城町から始めたい」と意気込みを語りました。

益城町仕様のユニフォームを寄贈

益城町と益城ルネサンス熊本のPR効果に期待

益城ルネサンス熊本FCの千葉弘樹監督が2月18日来庁し、町にチームのユニフォームを寄贈しました。

今回贈られたユニフォームは益城町の特別仕様で、実際に選手が身に着けるものより、益城町の文字が大きくプリントされたもの。各体育イベントで町長が着用することで、町やチームのPR効果が期待されます。

千葉監督は「『益城といえばルネサンス』というふうには、チームの名が益城町の代名詞になれば」と期待感を込め、町長へ手渡しました。



鮮やかな黄色が目を引くユニフォーム。写真左は千葉監督



田んぼの横に造られた「江」で網を使い、生き物を探す児童たち

冬の田んぼで発見 水生生物を調査

下陳地区の「冬水田んぼ」水源かん養事業

サントリーとくまもと地下水財団が行う「冬水田んぼ」(15.6㊦)で2月15日、連携する九州大学工学研究院と津森小4年生19人が水生生物を調査しました。

同校では毎年夏と冬にこの調査を行い、水生生物の多様性を学習しています。水を張った田んぼで、児童たちはドジョウやエビなどの生息を確認しました。

ドジョウ3匹を捕まえた北澤壺稀くんは「水が冷たくて手が痛かったけど、冬の水遊びは楽しかったです」と喜んでいました。

Best Smile

今月のベスト笑顔

